

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の履修ニーズに対応した開講科目の見直しを行う。	→履修者数一覧。	B	B	B	A	/
2. マルチメディアを活用した授業形態を2013年度までに3割に拡大する。	→マルチメディア利用の科目数。	B	B	A	A	/
3. オムニバス方式の授業形態をさらに工夫する。	→オムニバス形式科目に関するFDワークショップの開催。	B	B	B	B	/
4. 学生による授業評価制度を活用し、授業内容、運営方法等の改善を進める。	→学習効果測定の指標の開発、実施。	B	B	B	B	/
5. 研究活動への学生の主体的参加を促すため、言語コミュニケーション文化学会の活動を強化する。	→学会での研究発表数。教員・学生の参加者数。学会の講演会、教員を主体とするシンポジウムの公開。	A	A	A	A	/

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	言語文化領域の開講科目について見直され、2014年度から分かりやすい科目名称への変更、科目の廃止と新設が行われることになった。
目標2	開講授業の86.5%でマルチメディア機器利用のための申請があったことから、積極的に活用されている。
目標3	2012年度は言語教育領域のWG、2013年度は言語文化領域のWGにより、オムニバス形式の科目を含む全科目について見直しが検討された。科目（例、言語教育学特殊講義）によっては、最後の授業で全ての担当者と受講生が集まり、授業内容についてのみならず学生の要望を聞くなどの総括を自主的に実施している。
目標4	全科目において学期末に学生による授業評価を実施している。授業評価に関するアンケートは各授業担当教員に渡され、教員が閲覧できるようになっている。
目標5	学生主催の言語コミュニケーション文化学会が2回開催され、学生が研究発表を行ったほか、外部の研究会でも研究発表に際して言語コミュニケーション文化学会交通費補助制度が利用できるようになっている。2009年度～2012年度の年平均は約13件、2012年度は16名の学生から申請があった。
備考	